

テーマ	簿記の基礎（Ⅱ）：参考
-----	-------------

- (1) 八尾銀行より ¥300,000 を現金で借り入れた。
- (2) 現金 ¥500,000 を当座預金に預け入れた（銀行と当座借越契約を締結、借越限度額は ¥2,000,000）。
- (3) 備品 ¥80,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (4) 仕入先山本商店から商品 ¥500,000 を仕入れ、代金は掛けとした。その際、引取費 ¥5,000 を現金で支払った。
- (5) 上記(4)で仕入れた商品について品違いが発見され ¥65,000 分を返品し、同店に対する買掛金と相殺した。
- (6) 上記(4)の買掛金 ¥300,000 を支払うために、かねて売掛金のある経法商店宛の為替手形 ¥300,000 を振り出し、経法商店の引き受けを得て山本商店に渡した。
- (7) 上記(4)の買掛金 ¥135,000 を小切手を振り出して支払った。
- (8) 商品を ¥400,000 で販売し、代金のうち ¥150,000 は小切手で受け取り、残額は掛けとした。
- (9) 上記(8)で販売した商品のうち、¥10,000 分が品質不良のため返品された。売掛金と相殺する。
- (10) 売掛金の回収として、送金小切手 ¥150,000 を受け取り、ただちに当座預金とした。
- (11) 商品 ¥600,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- (12) 商品 ¥800,000 を販売し、代金のうち ¥500,000 は他人振出しの小切手を受取り、直ちに、当座預金に預け入れた。また、残額は掛けとした。
- (13) 東大阪商店に商品 ¥200,000 を販売し、代金は同店振り出しの約束手形 ¥200,000 を受け取った。
- (14) (13)で東大阪商店から受け取った約束手形 ¥200,000 を取引銀行で割引引き、割引料 ¥5,000 を差し引かれた残額を当座預金とした。
- (15) 用度係に対して小払資金として小切手 ¥50,000 を振り出して前渡しした。当店では、定額資金前渡制を採用する。
- (16) 用度係から次のとおり支払明細報告を受け、直ちに小切手を振り出して資金の補充を行った。

消耗品費 ¥5,000	交通費 ¥8,500	雑費 ¥2,400
-------------	------------	-----------
- (17) 現金の実際有高を調べたところ、実際有高が帳簿残高より ¥21,500 少ないことがわかった。原因は調査中である。
- (18) 現金過不足の調査の結果、広告費 ¥20,000 の記入漏れが判明した。
- (19) 決算日を迎えたが、不一致額の残りについては依然として原因が判明しないままであった。
- (20) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行った。なお、期首商品棚卸高は ¥90,000、期末商品棚卸高は ¥70,000 であった。売上原価は仕入勘定で算定する。

上記取引について、下記の金額について答えなさい。

1. 決算日における現金の残高
2. 決算日における当座預金の残高
3. 決算日における売掛金の残高
4. 上記の一連の取引における売上原価の金額
5. 上記の一連の取引における利益の金額